

情報・通信網の充実について

うるおいの環境都市部会

1 背景

「豊かさの実感、安全、快適、情報文化都市にいみ」を将来都市像として、新見市総合振興計画が策定されている。

我々の担当する「うるおいの環境都市部会」は、『情報・通信網の充実について』を研究テーマとして、市内全域に整備された情報基盤施設やその利活用方法等について、検討・協議を重ねてきた。

2 現状

近年、国内では各家庭において高速通信サービスが享受できる環境整備が進んでおり、新見市においても情報過疎にならないための施策として、総事業費約60億円を投じた「ラストワンマイル事業」を実施した。これにより市内全域に光ファイバー網が整備され、各家庭・事業所が接続することにより、次の各種事業を実施したことで、市内のどこからでも均等にサービスが受けられるようになった。

市内各戸に告知放送機器の設置

市内全域をブロードバンド化

難視聴地域の解消、地上デジタル放送への対応

3 効果

具体的なサービス内容及び効果については、次のとおりである。

告知放送

- ・防災行政無線に代わる告知放送システムを各戸に配備
- ・地区別放送（ページング放送）の実施
- ・チャンネル利用によるラジオ再送信

議会中継、行政からのお知らせ

- ・既存の放送番組以外の、独自番組の制作や行政チャンネルを活用した広報の実施

ケーブルテレビ

- ・難視聴地区の解消、地上デジタル放送への対応、多チャンネルの視聴が可能

I P 電話

- ・加入者同士の無料通話、遠距離通話や国際電話の格安利用が可能

4 課題

・市民の意見として、多額の資金を投じた割には目に見える効果を感じない実状がある。もっと情報基盤施設を活用した、多角的な市民サービス手法の構築や利便性が実感できるソフト事業の創設が望まれる。

・ケーブルテレビで放送されている「にいみiチャンネル」「行政放送」の更なる番組内容の検証と充実が期待される。

5 提言内容

施設を活用した行政サービスの双方向化

現在は、住民が役所に出向いて手続きなどをしてきたが、今後は過疎高齢化が進み、交通手段も少ない集落、家庭環境の増大が懸念される。行政は市民に対する最高のサービス機関として、これからは逆の発想で、行政が市民の方へ出向くような感覚で、情報基盤施設を活用して双方向通信の充実を図ることで、次のサービスが自宅において享受できる運用を検討する。

- ・住民票等の交付、各種証明書、施設の予約
- ・遠隔医療の実施

行政チャンネルの活用方法

行政チャンネルでは、現在、文字放送による行政連絡や生活・医療・健康・教育・防災などの分野で自主制作番組を放映している。工夫された内容の番組が多いが、視聴者の関心が高いと思われる教養番組の増大を要望する。

ページング放送の有効活用

地域の公共の業務や必要な情報を効率的かつ早期に伝達することができるページング放送については、利用者及び頻度が多いとは言い難く、積極的な利活用の推進を図るための周知機会が必要と考える。

告知放送機器の使用法の周知徹底

告知放送機器は、各種のお知らせや緊急放送を伝え、聞き逃した放送を繰り返し聞くこともでき、更にラジオ放送の再送信、緊急通報などの機能が備えてある。

しかしながら、市民が十分に機能を把握しているとは言い難いため、市が実施する会合等の様々な機会において、再度利活用方法について周知する必要がある。

施設の効率的活用

情報基盤整備については既に完了しており、今後は市民生活の充実を推進するためのソフト事業の充実が課題となってくる。情報文化都市をめざすためには、行政だけでなく、民・産・学が協働した推進体制の構築と効果的な運用方法を確立し、住民が本当に本市へ住んでよかったと実感できる、満足度の高い事業の実施を検討する。

6 まとめ

本市が実施した情報基盤整備は、情報化社会である現代において、将来を見据えた先導的な事業であると認識するとともに、今後到来する過疎高齢化社会に対応するような、豊かさが実感できるような有効な利活用方策について、様々な角度から検証する必要があることを考察することができた。

この提言が、少しでも施策に反映され、実現に向けて取り組まれることを期待する。